

雨垂れ(Капельки)

これは只の雨垂れ窓のガラスで
涙みたいに流れている。
内から拭き消し出来なく、
外から触っても意味がない。
あそこには寂しい世界が色を失くしていて、
太陽と温もりを待っている。
丸天井をキラキラに輝かせるため、
僕は空を擦りたかった。
星の夜また眠れない。
空の旅は全部正しい。
僕は飛べるかも知れない、
容易に、ゆくりなく、自在に!

道 (Путь)

これからもう少し、
もうちょっとかも知れない。
猫は危険な道を
選ぶと言うことが分かる。
子供の頃から知っていたもの
を見ている時、新を見つける。
分からないことの中に
意味と趣を見越す。
静けさと一体になって、
そんなこと木々に聞く。
卒直な復答のせいで
心も魂も暖かくなる。
春に樺が恥ずかしがる
幹を包み隠せないから。
茂みも草も弱くて、傷つけられるだけのもの、
でも、まだ生きている。
未知の深さのどこで
蝶の飛翔が生まれた？
毛虫と蛹虫見ても、
孵化を理解出来ない。
全然分からなくて
人生と世界の意味。
多分、詩人が生まれる意味
僕はいつか分かる。